

絵本と音楽の関係について

— 感情を表す色彩と音楽 —

木下由香

(2024年3月6日受理)

The Relationship between Picture Books and Music Color and Music for Emotions

KINOSHITA Yuka

要旨：本研究は、絵本コンサートを開催するにあたり、絵本に相応しい音楽をつける手がかりを見出すため、学生を対象にアンケートを実施し、色彩と感情、音楽と感情に関する先行研究から検討したものである。その結果、色に対する感覚は人それぞれであり、自身の体験や記憶に基づくものが大きいことが分かった。その上で、同じ調性の曲の比較では、曲想の違いによって感じる色に変化が表れること、同主調の比較では、「黒」と「白」の対比が明白に表れた。さらに、b調や#調の違いを感じ取り、「美しさ」については「白」がイメージされることが分かった。

Key words：色彩 音楽 感情 調性 絵本

1. はじめに

17世紀にオランダの哲学者スピノザは、「喜び・悲しみ・欲望」の3つの基本感情を軸に48種類の感情があると提唱し、以来感情に関する研究が始まった、と言われている。その後、1980年にアメリカの心理学者プルチックにより、人間の感情を色相環のように分類した「プルチックの感情の輪」が作られた。8つの基本感情から沸き起こる二次感情、三次感情を表し、感情の複雑性について示したものである。

日本において、色と感情に関する研究が始まったのは、1960年代であった。色の持つ感情は「色彩感情」と呼ばれ、色の好みやイメージなど様々な角度からの研究が行われた^{1,2)}。

音楽と感情に関する研究は、1980年代に始まり、音楽の刺激としての情動的性格を記述する研究と、音楽の聴取によって被験者の内部に生じた情動を記述する研究の2つに分けられた^{3,4)}。1990年以降は、パソコンやインターネットなどメディアの発達により、

音楽と映像による作品制作が行われ、その関係性についても研究されるようになってきた^{5,6)}。

酒井は「色彩や音楽には感情効果がある」と述べており、これを色彩・音楽の情緒性と定義している⁷⁾。筆者も自分でピアノを演奏しながら、自然と感情がこみ上げたり、音楽を聴きながら、頭の中に風景が思い浮かぶことがある。このように、色彩と音楽の感情効果については一般に「共感覚」と呼ぶのだが、複数の感覚器官を用いて感じる能力のことである。岩井は「共感覚の中で比較的に多いのが「音を聴いて色を感じる」現象であり、これは「色聴」と呼ばれている。」と述べている⁶⁾。

2000年以降は、楠瀬が音楽作品の調性と感情の関係についての研究¹¹⁾を行うなど、音楽の構成要素に焦点を絞った研究も行われている。音楽心理学という分野が確立され、美学的、生産的、心理物理的、社会文化的、教育的、発達の、精神分析的などの心理学的興味を含んだ多くの研究が現在も行われる

一方で、ソフトウェアや情報処理、デザイン分野の視点での情報推薦システムに結びつけた先進的な研究も見られる⁸⁻¹⁰⁾。

中村は「音色奏法」を提唱し、和音に対する色彩感を高め、それをピアノ教育に生かしている¹²⁾。武本は抽象的な芸術である音楽を言葉、色彩、映像などで具体化することで、楽譜に書かれた内容を理解し、音楽に内包される感情を認識し表現できるようにする「独創的なピアノ奏法&教育法」である「イメージ奏法」を提唱している^{13,14)}。

前述のように、色彩と感情、音楽と感情という方向性の研究から、色彩と音楽と感情といった複合的な研究に至りつつあるという現状である。

筆者はこれまで、担当科目「子どもと表現（音楽）」において「声を使った擬音語遊び」や「絵本に音をつける」の中で絵本と楽器を用いた創作活動を行ってきた。学生が行う音楽が生成される過程において、〈音楽を形づくっている要素〉の「リズム」「音色」「強弱」「速度」「拍」「フレーズ」「反復」の順で表現されることが明らかになったが¹⁵⁾、今回は筆者がプロデュースする絵本コンサートで演奏する楽曲を選定および制作するにあたり、より来場者の心を捉える音楽を届けたいと考えているため、アンケート調査を実施し検討していく。

2. 方法

本学幼児教育学科1回生77名にアンケート調査を実施した。実施期間は令和6年1月29日～2月1日である。12月調査は匿名で実施され、57名の回答が得られた（回答率74%）。学生には、調査結果を公表する旨、了承を得ている。

3. 結果

(1) 色彩と感情に関するアンケート

「赤・青・黄・白・黒・緑・橙・桃・茶」の各色から思い浮かぶことについて、短い文を1つ以上記述してもらった。

・「赤」は「情熱」が14、「熱い」「燃える心」も加えると26と多数。「怒り」「イライラ」といったネガティブワードも見られた。

- ・「青」は「悲しい」が16、「寒い」「涼しい」といった状態を表すワードも見られた。
- ・「黄」は全般的にポジティブワードであった。
- ・「白」は「純粹」「無」といった全体的に統一感のあるワードであった。
- ・「黒」は「暗い」「闇」といった状況そのものを表すワードと「病んでいる」「怖い」といったネガティブワードが見られる一方で「クール」「かっこいい」というポジティブワードも見られた。
- ・「緑」は「自然」「森」から想起される「爽やか」「リラックス」といった関連性のあるワードが見られた。
- ・「橙」は「暖かい」「元気」に見られるポジティブワードが揃った。
- ・「桃」は「可愛い」が圧倒的多数であった。
- ・「茶」は「土」「汚い」などのネガティブワードが見られる一方で「落ち着き」「優しい」といったポジティブワードも見られた。

全体傾向として、「赤」「黒」「茶」が相反する印象が表れ、「黄」「橙」の暖色系はポジティブな印象が総じて強いということが分かった。

表1には多い意見上位8つを記載した。その他、個人の体験や記憶に基づくような記述も一部みられた。色に対する感覚は人それぞれであることが分かった。

「赤」：秋の景色で紅葉、盛り上がっているフェスや祭りの雰囲気

「青」：青い春の3年間、砂浜から海と空を見ている時のゆっくり時間が流れるような不思議な感覚

「黄」：誰かを応援するような（甲子園）など明るい場面、ひまわり畑が広がる

「白」：テストの問題が解けない時、白って200色ある

「黒」：暗い部屋にひとりぼっち、カラスの群れがあり夕方で今日の終わり、夜で静かな気持ち、ロックンロール

「緑」：森林の中で鳥の声が聞こえる、野原で遊ぶ子ども

「橙」：冬にこたつで温まりながらみかんを食べる人、赤ちゃんを見た時、犬と触れ合っている

「桃」：誰かに優しくされた時、大事にされていると感じた瞬間、子ども達がちっちゃくて可愛い

「茶」：お腹が痛い時、複雑な気持ち

表1 色に対する学生アンケート

赤		青		黄	
情熱	14	悲しい	16	元気	6
怒り	8	寒い	7	明るい	6
熱い	8	空	6	幸せ	5
りんご	5	涼しい	3	輝き	5
メラメラ	4	クール	3	キラキラ	5
燃える心	4	海	3	楽しい	5
頑張りと決意する心	3	清らか	2	穏やか	4
イライラ	2	寂しい	2	笑顔	4
白		黒		緑	
純粋	7	暗い	8	自然	20
無	5	闇	7	森	5
きれい	4	病んでいる	7	爽やか	3
何も考えていない	4	怖い	5	自然豊か	3
雪	3	暗闇	5	リラックス	2
美しい	2	落ち込んでいる	2	安らぎ	2
すっきり	2	黒髪	2	穏やか	2
静か	2	カッコいい	2	安心	2
橙		桃		茶	
暖かい	11	可愛い	19	土	8
元気	8	優しい	8	汚い	7
温かい	4	幸せ	5	落ち着き	7
楽しい	4	恋	5	うんち	3
穏やか	3	うれしい	4	畑	2
明るい	3	ふわふわ	3	優しい	2
ワクワク	2	好き	3	沈む	2
優しい	2	女性的	2	ぬくもり	1

(2) 音楽と色に関するアンケート

・「素直な心 (ハ長調)」(ブルグミュラー作曲) と「貴婦人の乗馬 (ハ長調)」(ブルグミュラー作曲) の冒頭部分を筆者が演奏し、それを聴いた学生に何色を感じるか尋ねたところ、「素直な心」では「桃」「黄」「黄緑」「緑」など様々な色を選ばれた。「貴婦人の乗馬」では「黄」が

圧倒的に多く、次いで「橙」が選ばれた。同じハ長調の曲であるが、「素直な心」はなめらかな落ち着いた曲想で、一方「貴婦人の乗馬」はスタッカートが多用された馬が澁澁と闊歩する様子を描いた曲想であることから、色を選挙にあたり曲想による影響があると考えられる。(表2・表3)

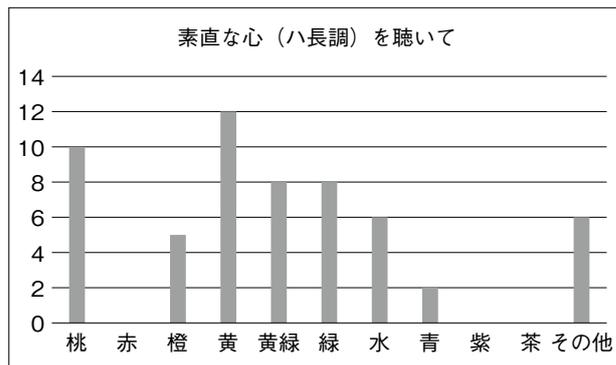


表2

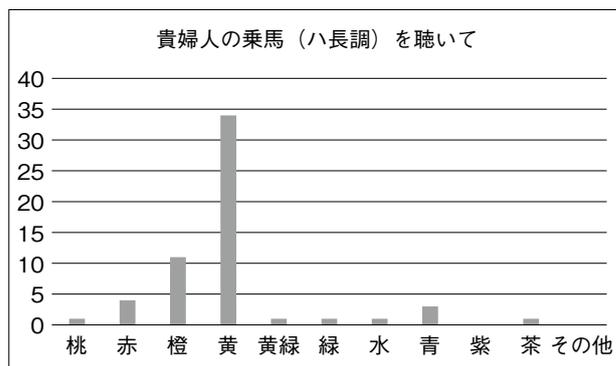


表3

・「バイエル93番 (イ短調)」(バイエル作曲) と「アヴェ・マリア (イ長調)」(ブルグミュラー作曲) の冒頭部分を筆者が演奏し、それを聴いた学生に何色を感じるか尋ねたところ、「バイエル93番」では「青」が多かった。「その他」の中に「黒」が12、「灰色」が8見られた。「アヴェ・マリア」は満遍なく様々な色を選ばれた中で、「その他」の中で「白」が22と、大多数であった。イ短調とイ長調といった同主調の比較であったが、「青」「黒」に対する「白」とははっきりとした違いが出た。(表4・表5)

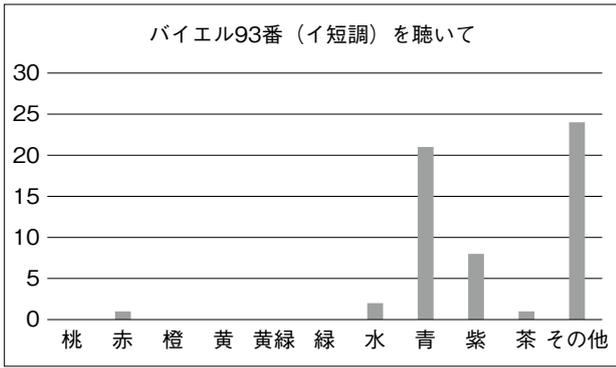


表 4

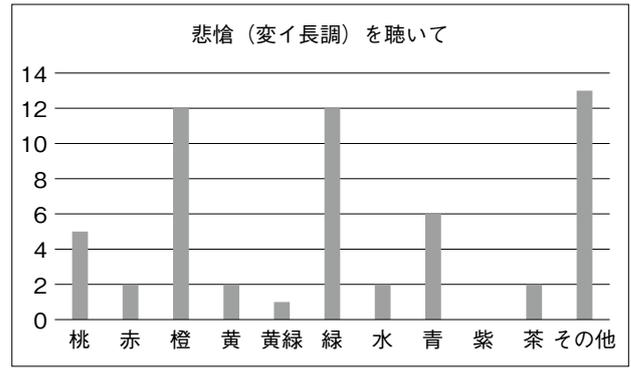


表 7

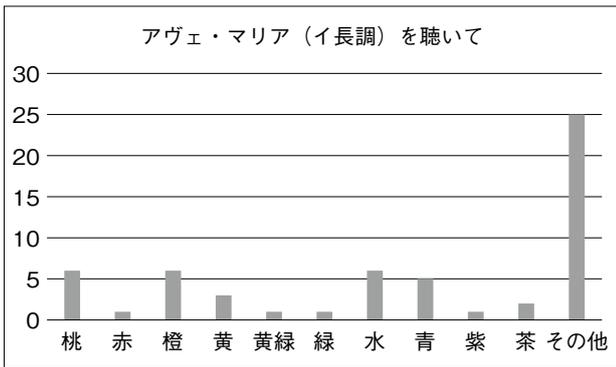


表 5

・「軍隊行進曲 (ニ長調)」(シューベルト作曲)と「アラベスク第1番 (ホ長調)」(ドビュッシー作曲)の冒頭部分を筆者が演奏し、それを聴いた学生に何色を感じるか尋ねたところ、「軍隊行進曲」では「黄」「橙」「赤」といった暖色系が選ばれた。「アラベスク第1番」では「その他」の中で「白」が23と大多数であった。これらの曲は#調の曲であるが、「軍隊行進曲」のように拍子感が明白で力強い印象の曲想と、「アラベスク」のようにペダルを多用して柔らかく掴みどころがない印象の曲想であったことが、色の選択の際にはっきりと違いが表れた。(表8・表9)

・「ノクターン第2番 (変ホ長調)」(ショパン作曲)と「悲愴 (変イ長調)」(ベートーヴェン作曲)の冒頭部分を筆者が演奏し、それを聴いた学生に何色を感じるか尋ねたところ、「ノクターン」では「その他」の中で「白」が14と一番多かった。次いで「黒」が4であった。「悲愴」は「橙」「緑」がそれぞれ12と多く、「その他」の中で「白」「灰」「黒」が3と続いた。これらの曲はb調の曲であるが、どちらも有名な曲で落ち着いた曲想の曲であったためか、様々な色が満遍なく選択された印象である。(表6・表7)

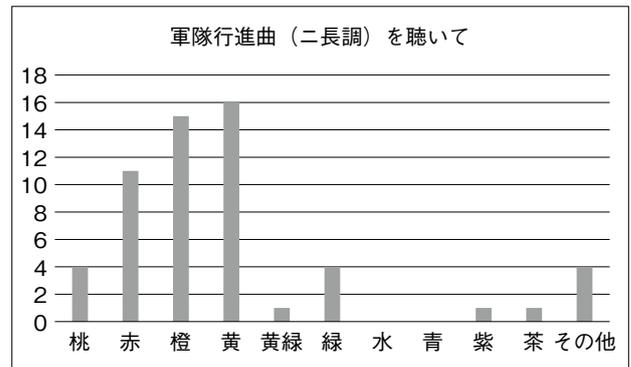


表 8

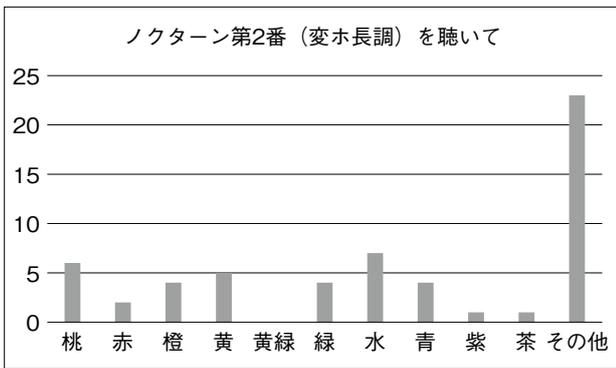


表 6

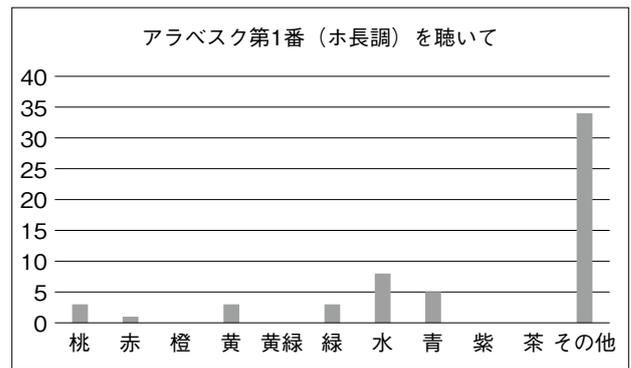


表 9

4. まとめ

アンケートの上位結果をまとめて概観すると、「貴婦人の乗馬（ハ長調）」は大多数が黄色を選び、その印象と曲想がマッチしていることが分かった。「バイエル93番（イ短調）」は提示曲の中で唯一の短調の曲であり、多くの学生が「青」「黒」を選び、曲の悲しさや暗さを感じ取っていることが分かった。4つの♭がつく「悲愴（変イ長調）」では、「橙」や「緑」など自然を思わせる暖かい印象が曲想とマッチしていた。「軍隊行進曲（ニ長調）」は「黄」「橙」「赤」が選ばれ、元気で明るい色彩の印象と快活な曲想がマッチしていた。「アヴェ・マリア（イ長調）」「ノクターン第2番（変ホ長調）」「アラベスク（ホ長調）」では、多くの学生が「白」を選択したが、どの曲も優美な印象の曲であり、和声の美しさが際立つ曲である。美しさを「白」で表現する傾向がみられることが分かった。（表10）

表10 アンケートまとめ

素直な心（ハ長調）	桃	可愛い
	黄	元気
	緑	自然、爽やか、リラックス
貴婦人の乗馬（ハ長調）	黄	元気、明るい、幸せ
バイエル93番（イ短調）	青	悲しい
	黒	暗い
アヴェ・マリア（イ長調）	白	純粹、きれい、美しい
ノクターン第2番（変ホ長調）	白	きれい、美しい
悲愴（変イ長調）	橙	暖かい
	緑	自然、リラックス
軍隊行進曲（ニ長調）	黄	元気、明るい、幸せ
	橙	元気、楽しい
	赤	熱い
アラベスク（ホ長調）	白	純粹、きれい、美しい

中村は「色彩心理学において、個々の色の一般的な性格と対応する音楽表現について

青 …快眠効果があり、寝室の室内色によく使われる。響きとしても「静かな落ち着いた雰囲気」がふさわしいといえる。

緑 …「自然」「調和」といったことばが似つかわしい色。音楽でも、穏やかで、のびやかな感じの音楽が当てはまり、あまり強烈なフォルテやフォルティッシモはふさわしくない。

黄 …「コミュニケーション・カラー」ともいわれ、明るく開放的なイメージ。音楽では、光を感じさせる響きの表現と結びつけられるでしょう。

橙 …勇気がわいてくる色。「気持ちが軽くなる」響きのイメージ。「世俗的な喜び」「カジュアルな感じ」

赤 …「自分をアピールしたい」と叫んでいる色。情熱的な響きがびったり。

桃色…幸福感のある愛らしい色。リストの《愛の夢》などが連想される。

茶 …落ち着いた、地味な色。荒々しいイメージ。重厚感のある響き。

白 …いろんな可能性を秘めた色。無限性を感じさせる。ドビュッシー《白と黒で》

黒 …暗く重たい感じ。威厳。重厚で厳粛な響きを連想」と述べている¹²⁾。あてはまる点もあり、音楽表現をしていく上で参考にしたい。

アンケートに回答した学生からは、以下のような感想が寄せられた。

「難しかった」

「音から考える色は楽しかったです」

「人それぞれ感じ方が違う」

「音楽と美術館を組み合わせたら楽しいと思いました」

「色のイメージは音の響きと少し似ているなど感じました」

「色に勝手なイメージを作っていることに気が付きました。それぞれのイメージが偏見になるけれど、それが人と共通しない時に受け止めることが出来れば優しく生きられると思いました」

「明るい気持ちだったら暖色で暗い気持ちだったら寒色だと感じました」

「暖色を使っていれば長調、寒色を使っていれば短調に感じるんだと思いました」

「知っている音楽だとドレミが頭を駆け巡るので何色を付けるのかを考えるのが難しかったです。同じ黄色でもハッキリとした黄色なのか、白が多い黄色なのかなど様々な黄色があっ

今回は全部黄色と書いたけれどどれも違う色なんだなと感じました」

「音を聞いて、景色や物は思いつきやすいですが、何色だろうと考えたら難しかったです」

「音や絵から色を考えると、情景や感情、過去の思い出などさまざまなことを思い浮かべることができるなと思いました。色や絵と音は人生を見つめることができると思いました」

「なかなか何かを色に例えたり、言葉で表現する機会がなかったため、難しさも感じたが絵だけでなく音でも人によって様々な表現の仕方があるのかなということを感じるいい機会になった」

「難しかったけど、見たものから色が見えたり色を見て音を感じたりすることに普段から身近にあるんだなって感じました」

「意識して考えたことがなかったので難しかったです。色から想像して場面を選ぶのは、楽しかったです。仲良い友達と話し合うともっと想像が膨らみそうだなと思いました」

非常に多くの学生から「難しかった」とコメントがあった。これは私たちが普段いかに何気なく生活していることが言えるであろう。様々な現象に対して感覚過敏になる必要もないが、少なくとも音楽や絵は、私たちの身近な存在であり、人生を振り返った時に必ず記憶とともにセットで回想されるものである。音楽や風景をイメージする中身も、自身の体験や記憶に基づくものが大きい。色に対する感覚も同様である。同じ調性の曲でも曲想の違いによって感じる色に変化が表れること、また、 b 調や $\#$ 調の違いを聴取し、「美しさ」については「白」をイメージすることが分かった。

音楽の認知的研究は、音楽が個人差の大きい体験を基に行われている活動であるため十分ではないと言われている。音楽を含む芸術分野は、人間の美的感覚を刺激するものだと筆者は考えているので、豊かな人生を送る上で芸術分野の重要性について地道にアピールしていきたい。今回は短大生へのアンケート調査を行ったが、今後は子どもや高齢者など幅広い対象者へのアンケートを行い、より広い視野

での知見を得たことを、絵本コンサートなどで活かしていきたい。

5. 引用・参考文献

- 1) 相馬一郎、色彩と感情、テレビジョン第21巻第12号、1967
- 2) 神作順子、色彩感情の分析的研究—2色配合の場合—、心理学研究34巻1号、1967
- 3) 中村均、音楽の情動的性格の評定と音楽によって生じる情動の評定の関係、心理学研究54巻1号、1983
- 4) 阿部純一・星野悦子、音楽の認知心理学的研究について、心理学評論28巻2号、1985
- 5) 佐藤聡ほか、感情に基づく音楽作品検索システムの実現に向けての検討、情報処理学会研究報告、2001
- 6) 岩井大輔ほか、音と色のノンバーバルマッピング—色聴保持者のマッピング抽出とその応用—、情報処理学会研究報告100号、2002
- 7) 酒井英樹、色と音の共感覚、大阪市立大学大学院文学研究科COE国際シンポジウム「都市のフィクションと現実」、2004
- 8) 金箱淳一ほか、色と音の感情を介したマッピング—マッピング規則の抽出と作曲支援システムへの応用—、日本ソフトウェア科学会第22回大会論文集、2005
- 9) 大串健吾、音楽と感情、バイオメカニズム学会誌30巻1号、2006
- 10) 木村敦ほか、感情効果の類似が形と色の調和的關係に及ぼす影響、デザイン学研究52巻6号、2006
- 11) 楠瀬理恵・井上健、音楽作品の調性が感情に及ぼす影響について—精神生理学的検討—、臨床教育心理学研究35巻、2009
- 12) 中村誠、先生のための新しいピアノ練習法 音色奏法入門—楽しみながらハーモニー感を身につける、スタイルノート、2014
- 13) 武本京子、「楽譜」から音楽の内容を復号する「イメージ奏法」の展開—音楽を理解し表現意欲を高める指導法の実践—、愛知教育大学研究報告68巻、2019
- 14) 武本京子・伊藤康宏、演奏者の「イメージ奏法」を使った感情の知覚化による音楽と映像の供与—視聴者自身の音楽への「共感性」の認知から心の再生を促す試み—、日本音楽知覚認知学会春期研究発表会抄録集、2019
- 15) 木下由香、領域「表現」の授業のあり方(3)—絵本に音をつける創作活動を通して—、仁愛女子短期大学研究紀要第54号、2022